

じるがよい。

子供の博覽會見物は、幾度にもさせるがよい。幾千の珍らしい物品が、陳列せられてあるから、之を一度に見せるといふのは、子供の頭の爲めに甚だよろしくない。そんな事をするとき一時に強烈な刺戟を受けるので、ボンヤリしてしまつて、歸

つて「何を見たか」ときかれても、一向何にも覚えて居ないといふやうな事になる。加之、往々、之が爲めに安眠が出来ないといふやうな結果になる。故に、面倒でも、子供には、必ず一度に一部分づゝを見せる事にするがよい。教育上にも、それが有効であらうと思ふ。

躰方の準的 (二)

(神戸市教育會に於ける講習の一節)

文學士 檜崎淺太郎

五、明治の教育に於ける徳

育の消長

前にも申し上げました様に明治以前の教育の主眼は意志の鍛練と云ふ一點に置かれたのであつたが、明治の教育になつてから暫時の間は智力の教育に全力が注がれた。日本の文化は歐米の文明に

比べたら到底足元にも寄られ無いから何よりも先に國民一般の智力を高めるのが最急務と考へられて居た。かく考へて上下擧つて智育を主とした爲め勢ひ徳育の方は怠り勝ちになつた。かゝる状態の教育を明治十年頃まで行ふて見た。ところが智育に偏した過去十年の教育的經驗は識者をして其欠陥を認知せしめる様になり、維新以前までに涵

養せられて来た忠君愛國禮義仁愛などの道徳上の美はしい徳性が少しく薄らぎかけたと見らる可き兆候が社會に現はるゝ様になつて来た。そこでこれでは大變であると社會の先覺者が先づ憂を抱いて遂に自ら立て、日本固有の道徳の保持に力を盡す様になつた。西村茂樹先生は其首領でありました。先生は明治九年から東京修身社を起して青年の徳育遂行の機關とせられ鋭意徳教に奮身し終に明治十九年に至りましては東京大學で學生全般に日本道徳論を講せられた、先生は其講義を開始するに當り次の如き告白をせられて居る。「今日より引續きて爲す處の演説は余が日本全國の爲め、日本國民各人のためと思ひ込みて滿身の力を盡して講述する所なれば願くば聽衆諸君は一場の閑言語と看做すことなく聽聞あらんことを望む若し余が演舌する所道理に合へりと思はゞ願くば同心協力して斯道を國中に擴めんことを務め、疑はしき條件あらば十分に質問あらんことを……」之れによ

りて見るも當時の識者が如何に智育偏重の教育の結果を恐れ人心の逆流を停止せんと勉められたかを知ることが出来る。かゝる工合で徳育のゆるかせにしてならぬことが稍分る様になり明治十五年以後は學校の教育でも徳育を重ずる様になり品行を注意し小學校では品行通知表を作りて毎日學校と父兄が兒童の品行を互に通知し合ふて矯正善導する様になり、其時の故森文部大臣も全力を茲に注がれた。續いて二十三年には徳育の目標とすべき教育勅語が下賜せられて進む可き道が明となつた。其以後は文部の當局者の方なり實際教育家が非常に苦心と工夫をせられて勅語の御趣旨の貫徹に力を注ぎて今日までに至つた。斯の如き次第で明治二十年以後の教育を形式的に見れば餘程徳育に骨を折られた様であつたが併し豫定の結果を充分に收めることが出来なただのではなかつたかの感がある。それには色々な原因もあるが徳育の研究が不充分であり、方法が其要を得て居なかつた

ことも其原因の一ではあるが併しこの外に他に色々な有力な原因がある今其一二を擧げて見ると。

六、現今に於ける國民道德

の動搖と其原因

我國民は日清戦争日露戦争によりて兵士の精神が昔の武士とは段々變りつゝあることを知つた。即ち上官の命令でも危き所へは進むことを躊躇する様になり忠君愛國の念が漸次衰へ利己的傾向が著しく増進した來た。何故に此忠君愛國の精神がうすくなつたかと云ふに

其一は義務教育、中等教育、高等教育普及の必然的結果である殊に高等教育を受けたものが増すと色々物事を考へて見るを考へた結果は言語に表し議論をする。世の中に議論が多くなり各種の意見が發表せられる。其意見の多くは自己の利害得失を根據として立論せられる。加ふるに、西洋から輸入せられた自由主義、民主主義、個人主義、

享樂主義、自然主義等の思想が直接若くば間接に利己的傾向を助長して一層其傾向を強勢し極端にまで走らせる。そして遂には「忠君愛國は何の爲めであるかと」と疑ひ「何故に各個人は國家の犠牲にならなければならぬか」と個人主義の見地から論を進める。そして自分の考へたところがそれが社會にどんな影響を與へるかどうかは深く考慮せずして無遠慮に新聞雜誌に公表する。よし公表しなくとも日常の談話の間に其思想が洩れる。之を聞くものゝ内で話したものと同様の考を持って居つた者は一人の味方を得て自信を強める、其思想がいよゝゝ生命を増して來る。之を聞いた多くの民衆は自ら思考する力は無い。随つて自己の意見は持たぬ頭は空虚である併し聽けば理解するだけの力は教育に依つて養はれて居る。そこで理解して成程あの人の云ふさにも一應の道理があると自らうなづく、不知不識其思想が民衆の胸裡に移植せられ漸次に培養を受けて遂に民衆の思想の變化

が起り所謂國民思想の動搖が始まる、國民思想の動搖は種々なる方向に向けられる。それが國家に對すれば從來の國家に懷疑思想を抱かぬとも限らぬ。殊に社會國家から相當に愛護せられない不平等家が之に陥る、不平等家なくとも時に思考して見る。そして遂には日本の國家存立の絶対必用に就きてすら疑をさしはさむと云ふ恐ろしむの結果となる。事茲に至れば危險思想中の最も危險なる調を帯びて来る。以上は我國民思想の動搖が現れて來た徑路の一端を尋ね、夫が國家に對しては如何なる結論を導くかを述べたが此の考が社會に向けられ、家庭に向けられ或は日常の生活に向けられる時は其處に亦新しき社會觀、家庭觀が生ずる。政治に向けられれば新しき政治觀が生ずる。たとへる面にはどんな理由が潜んで居るか知らぬが表から見れば昨年以來の諸種の政論中には著しく新しい政治觀が発見せられる、其中には随分舊思想の人を變遷せしむる様な事實も無いでも無い、そして多

くの民衆は却つて之を歡迎して居る。勿論其内には非常に正しき進歩があるとも疑ふ餘地は無い、併し余は茲に是等の思想中に含まれて居る要素を分折しようとするのではなくして唯國民的意識が非常に動搖し易い状態になりて居ることを指摘したい。そして之は國民思想に確固たる標準の欠損して居るためであるが、それが引いて國民の意志の力を弱くし堅忍持久の力を甚だ薄弱ならしめる所以を御理解を願ひたい。

意志の薄弱は質朴堅實の徳を失ひ奢侈浮薄の風潮を盛ならしめる、今日の社會の色彩は浮薄と云ふ一語で飾られて居る。之れは實業界にも政治界にも將た又堅實を以て特徴とす可き宗教界教育界も其色を帯び學生間にも召使の間にも丁稚仲間にも之れが認められる。新しき文明の起り人心が現在及び將來にのみ向ひ歴史を忘れ昔を思はぬ人々の思想には多少浮薄の傾向はあるのが原則だがそれが今日は極端に進んで居る。殊に憂ふ可きは將

來の國家を形成す可き青年に此の風潮の感染して居ることである。今日の學生間の談話を數分間聞きて居ると其内には「いやだ」「かなはん」「うるさい」「悲觀した」「よせく」などの語を直に發見する、かゝる語は意志の薄弱な浮薄の氣に充たされて居る表徴である

昔の畫生は一度師と仰いだ先生ならば其の先生の流義を一目散に手に入れんとをつとめ十年も廿年も専ら先生の繪の模倣につとめた。其つとむること長きに從ふて自ら其人の個性が發揮して新なる一家を爲す可き特徴が生じて大家となつた。今日の學生は美術學校に入り數年學べば直に先生を批評し妙な畫を畫き獨りで大家になりすまし根氣よく勉強する者が尠い。教育界にても亦然りだ。次へ次へと移り浮薄に傾くの嫌がある即ちモンテッソリーでなければ一時も夜も明けなかつた京、阪神の保育界が各所の講習を手引きにしても今日モンテッソリーの保育を實際に本當に研究せられて

居る所が何處にあるでせうか、かゝる有様では保育界の研究の良心はまだく薄弱と云はざるを得ないと思ふ。唯態度だけで云ふと自分の往く可き道を深く信じて靜かに進んで居られるフレベール心醉の保育家をなつかしく又心嬉しく思ふ（之等の方面にも缺點はあるがよき點をのべて云ふ）

かく云ふのも實は京阪神の保育界の將來に大なる光明と希望を持つて居るからである。先に研究的良心が甚だ薄弱であると云ふたが之は諸君を激勵したさの苦言である。實を云へば私の如く研究其者を以て生命として居る者が懺悔に堪へ無い程諸氏は研究に夢中である日々相當の保育其者の仕業のある上に。各種の講習を開き調査を行ひ相談會を設け時々各地方の保育を視察し斯道の大家に意見を求め鋭意改良を謀りて居らるゝ處は恐く全國に其比が無いのみでなく世界にも多くはあるまい。私はよくあれ程出來ると感心する許りである。是等は斯道の先輩が其道を開き熱心に誘導せられ

た處に深き根據があるのでしようが他方實際に従事せられて居つた保姆諸君の内心に長き間何者かの欠陥を感じ強く深くあるものを求めて居られた結果と云はねばならぬ。斯る氣運に向ひて居る關西の保育界は前途甚だ多望であるが多望であると共に大に警戒を要し世の風潮に捲き込まれてはならぬ、どうかすると捲き込まれ易い傾向もある

例へば私方は放任主義である。私方は活動主義でやつて居る。私方は自由活動を重すと。然らば自由活動とは如何にするのであるかと少しく底強き反問があると我ながら明白に答ふるに苦しむ。昔の眞の教育家は自己の修養がありて教育に従て居た今の教育家は職業として教育に従事して居るのでどうも根柢が浮薄である。私は新進氣鋭の教育家又は保育家の人たちの間に自由とか活動とか云ふ類の言葉や感想が時々談話の間に繰り返へされるを聽いて居る、かくの如き語を年若き青年教育家又は保姆の方々が相互にはなされて居るのをき

ゝて深き興味を感じかくの如き人の手を待つて始めて保育の事業廣義の教育が改善せられ進歩するのであらうと力強き感を懷き新しさ針路はこの人達によりて切り開かれ行くのであらうとの感に打たれるが又暫くすると續いて多少の疑懼と不安の念が生ずる。其不安は彼の人たちは果して此新生面をきり開いて行くに足る充分な準備と精神と意氣とを有して居らるゝのであらうか。假に精神と意氣ありとするもどれだけの準備があるかと思ふと其際多少のおぼつかなさを感じる。一種の浮薄と云ふ色が無いとも云へない、かくみれば教育界にも浮薄の分子が流れ込んで居る。

七、善良にして強力なる

意志教育の必要

斯の如く一方には人心が浮薄に流れ奢侈に耽ると共に人々の欲望は享樂的現世的になり他方には忠君愛國の念漸次衰へ個人主義増長すれば國家の

存立は不可能となる。然るに今日世界の人種的競争は日一日と激烈を極めて居る表面平和を装ふて密に犬牙を磨きて居る。一方に平和會議の行はれて居るかと思ふと他方にありては偉大なるドレノート大艦が製造せられて居る。かゝる間に立ちて日本の國家の存立を保ち日本人種の權威を發揮して行くにはどうしても先づ國家として立派に存立せしめなければならぬ。國家なき人種が如何に悲境におち入りて居るかは露國に住する猶太人を見ればよく分る。彼等は公立の學校に自由に入學出來ず職業を自由に選ぶことが出來ず又自由に旅行が出來ないかゝるが故に個人權利を保證する爲にも國家の存立を必須の要件とする而して國家を存立せしむるためには個人の利益と權利などは一時犠牲にしても其の存立のために戦はなければならぬ今日世界の列國中で一人日本人のみ異人種で他の英米獨佛伊露等は皆同一人種で且基督敎國である同一の利害關係の時は先づ向ふは合同しやすい。

かゝる列國の間にありて而も我國の經濟狀態は外債二十幾億ある之に市町村の負債を加ふれば非常なものである而して他の列強に比すれば天産物も貧弱の方である、かゝる難局眞に國家危急存亡の秋に當りこの難關を切りぬけるのは國民の善良なる意志の力に待たざるを得ない之を外にして他に道がない。

曾て東京の倉橋文學士が神戸に於ける京坂神聯合保育會で幼兒保育の新目標なる題目の下に有益なる講演をせられ實行、奮闘、精勵の生活を爲し總べての艱難に打克つて疲れず携まず自己の所信と使命とを實行して行くことの出來る處の強き彈力性のある神經系統の發達を謀り之を保護するのが保育の新しき目標でなければならぬと教へられたことは今猶諸君の耳に新なることと思ひますが何人が考へても、同じ結論に達する。而して倉橋氏は強き意志の養成の手段或は基礎として生理的に神經系統の保護及び養成を極言せられて居る、

之れは生理的に見れば神經系統の發達保護心理的。に云はゞ善良にして強力然も持久性を有する意志の涵養である而して之れは實に教育の力で養はなければならぬ。かく考へて來ますと純粹の教育學の學說からみるも我國の現狀より見るも意志の鍛練と云ふことが訓練の最大目標とみてよい、之れだけ申上ますと意志鍛練の重要なる所以につきての御自信は充分出來たと思ふが、この思想に千金の重を與へんために意志教育の大鼓吹者然も國勢挽回の爲に意志教育の必要新教育の理想を鼓吹したる而して獨逸國今日の興隆の源を開きたる「フヒテ」の意見を皆様にご紹介せざるを得ないのであります。

回顧致しますれば今日より約百七年の昔千八百六年は獨國プロイセン國の忘るべからざる時でありました。普國軍はイーナ及アウエルスタットに於てナポレオン軍に破られライン、エルベ兩河の沃野の大半を佛に割讓し兵力僅かに數萬となり伯

林は佛軍の占領する處となり國今や滅びんとし民力將さに盡きんとするの悲境に陥ち入つた此時フヒテは、エルランゲンの大學で講義をして居つたが急に其講演を停止し急ぎ伯林に歸り率先して普國及全獨逸國民の元氣の回復を努め一身の危険を顧りみず敵軍占領中の地に在つて「獨逸國々民に告ぐ」と云ふ大演舌を試みた。其演舌は獨逸の人心を刺戟し國民の自尊心を進め佛國より受けたる屈辱の狀態を脱せんとする傾向を起した今其演舌の梗概を話すと次の通りです。

諸君之れはフヒテが獨逸の國民に告げたのが今日の日本は實に其當時の獨逸の狀態に似たものがある今の我國の狀態を心に持ちておききになれば恐らくは木石の如き人と云へども心を動かし心あるものは感憤する處なくてはならぬと思ふのであります。演舌の主旨は國民の道德的及學術的敎育により衰弱の極端に達したる國勢の挽回を企てんと欲する處にあります。

『今日の獨逸國民は常に利己的狀態に陥りたるのみならず外國の威力の下に屈從したるが爲に遂一利己心の獨立すら之を失ふに至つた、かくの如き國民は如何にして之を救濟すべきか他よりの補助神力及び其他一切の事は國民を此の狀態より救ふに足らず。若し何か之を救はるる者ありとせばそれは唯其自力に依るの外は無い。而して自力を養ふ唯一の方便は從來の教育法を全く新にし以て國民生活を一。新。す。る。に。あ。る。新教育は個人意志の我儘なる自由を全然破壊し之に代ふる必然的理想の意志を養成するを以て主眼となせ。從來の教育に於ては恐怖及希望快樂の如き自己の愛を以て意志の動機たらしめたるは甚だ不當である。善其者の愛を唯一の動機たらしめねばならぬ。而して善其者を悦ばしむるは單に之につきて談り徒に記憶及び想像を勞せしむる如き方法の能くする所に非ずして生徒の自發的活動に依らなければならぬ又眞の陶冶の目的を警戒し理想の命令に従ひ全體のため

には多く自ら抑制す可きを悟り此の抑制が社會的生活秩序の生活の要求上眞に必要なことを理解せしむるが大切である。教育者は止むを得ざる時は罰を用ひて其秩序の精神の發生を強迫しても宜し。之れは意志陶冶の消極的方法なるが更に積極的には全體の爲めに働くことある規定を設くるがよい即ち全體のために相協同して働き報酬及賞與を求むることなくして全體のために盡すことを快とするに至らしむ可きなり

新教育の最後の務めは人をして眞の宗教的生活に入らしむる點である。而して宗教は徒に未來を望み現世を夢まぼろしの經過的のものに不動の分子を植ゑ天國を此の世に發見し建設し現世の事業の上に永久繼續するものを注入す可きである。純潔なる人が其事業の永久不滅ならんとを求め且之を信じ得るは外觀消滅的のものに不滅の分子を承認し得るがためである。吾人が一身を捧げて國に盡し社會に盡し事業に盡すは實に此の永久不滅の

分子の存在を信向するがためである生活は單に變化する實在の繼續としては何等の價值はなし、行水に數書く如き水泡の如きものならば實に無意義のものである。ところが俗人が無意義と思ふものもよく考へれば永久不滅の意義ある而して國民の獨立的繼續がこの事業の生命を不朽ならしむる故に國民國家の獨立的繼續のためには死をすら欲せざるを得ない。個人死すとも國民生活すれば其個人は猶眞によく生活することが出来る。

新教育の則とするに足るはペスタロツチの教育法である氏の教育が直觀と自己活動に重きを置きたること及び身體練習に深く注意せられたとは實に達見であつて少年は各武器を取つて其國の爲めに戦ひ得る體力を持たなければならぬ。教授及認知の眞の根據は感覺である尙新教育に於て要求す可き一の主要なる事項があるそれは學習と作業とを結合することであつて生徒は少くとも其教育所を各自の共同的自力によりて維持せらるゝものと

して見各自其目的に對して力を盡すとの意義を有せんを必要とする。此の事は教育事業其者の要求する所のみでなく共同の國民教育を通過するものゝ多くは作業者の地位に立つが故に其準備的練習を行はしむる點よりみて重要である。學校は學者のみ養成す可きものにあらず。又他人の助を要せず自力により世に處し得るとの自信は人格の獨立及び道德の條件なり。深く注意するを要すと論じ更に手技の教育に就き意見を述べて曰ふには刺繡及び紡績の如き技を課するは敢て不可とは云はないが然し主要の作業は耕作園藝牧畜及び學校團體に益ある手技でなくてはならぬ。』

以上はフイヒテの演説の梗概に過ぎぬが併し其内には意志の教育、自發活動、宗教的教育、學習と作業の結合等今日の教育の理想として居る處を明示して居る。一日の保育の業を終り深夜熟讀其精神を了得せらるゝならば恐くは實際の保育に根本的の革新を加へなければならぬとの御發心が起

るであらうと深く信じます。私は只今意志教育の鼓吹者として遠く獨逸に其人を求めましたが道は近きにありて我國にありても其人は少くないのであります。殊に故森文部大臣は思想混亂の時代に當り文教の宰相となり國民思想の確立と統一に全力を注ぎ志氣雄壯なる國民を養成せしが爲に體育を尊重し獎勵せられた。氏は曾て九州巡廻の時意志の教育體育を専らとする熊本の濟々疊に立寄り其學校を見て其主義を賞賛せられて、凡そ學校なる者は斯の如くなければならぬ。智育に於ては進んで居らぬが其目的は教育の第一主義を得て居る即ち學校の模範ともなるべきものであると云ふて歸京の後先帝陛下に奏聞せられたと云ふことである。森氏が教育の第一精神、根本義につきては深く考察し善良なる意志の鍛鍊國民志氣の練養陶成に如何に苦心せられ如何なる見解を有して居られたかは氏が奉られた教育意見書に見ることが出来る。今之を朗讀して見ますと次の通りである其文

章亦風誦するの價值がある。

『有禮職を文部に奉し。爾來

聖明改良の盛旨を奉體し。教育の方法規則。既に粗々端緒に就くことを得たり。竊かに惟みるに百般の事。先づ準的を定むるを要す。準的一たび定まるときは以て年を期して非常の業を成就することを得べく又以て永久に舉行して頽廢に至らざることを得べし。今夫國の品位をして進んで列國の際に對立し以て永遠の偉業を固くせんと欲せば。國民の志氣を培養發達するを以て其根本と爲さざることを得ず。是乃ち教育一定の準的に非ず乎今は文明の風變々として行はれ。日用百般の事物漸く變遷し進む然るに我國民の志氣果して能く練養陶成するありて難きに堪へ苦を忍び前途永遠の重任を負擔すに足れる乎。二十年の進歩は果して眞確精醇深く人心に涵漸し以て立國の基を鞏固ならしむるに足る乎加ふるに我國中古以來文武の業に従ひ躬國事

に任ずるは偏に士族の専有する所たり。而して今に至り開進の運動を主持する者僅に國民の一部分に止まり。其他多數の人民は或は茫然として立國の何たるを解せざる者多し。顧みるに歐米の人民上下となく男女となく一國の國民は各々一國を愛するの精神を存し固結して解くべからず。以て能く大難を冒し大危を忍んで其立國を爭奪の間に維持する者は多くは其教化素ありて以て品性を陶養するの力に由らずんばあらず有禮不肖思念して此に至る毎に三嘆痛息して措く所を知らざるなり。蓋教育の規則粗々備はるも教育の準的は果して何等の方法を以て之を成遂することを得べき乎顧みるに我國萬世一王。天地と與に限極なく上古以來威武の輝く所。未だ曾て一たびも外國の屈辱を受けたることあらず。而して人民護國の精神。忠武恭順の風は亦祖宗以來の漸磨の陶冶する所。未だ地に墮るに至らず。是即ち一國富強の基を成すが爲に無二

の資本。至大の寶源にして以て人民の品性を進め教育の準的を達するに於て他に求むることを假らざるべきものなり。蓋國民をして忠君愛國の氣に篤く品性堅定。志操純一にして人々怯弱を耻ぢ屈辱を惡むことを知り。深く骨髓に入らしめば精神の嚮ふ所萬派一注以て久しきに耐ゆべく以て難きを忍ぶべく以て協力志同して事業を興すべし督責を待たずして學を力め智を研き一國の文明を進むる者此氣力なり生産に勞動して富源を開發する者此氣力なり凡そ萬般の障礙を免除して國運の進歩を迅速ならしむる者。總て此氣力に倚らざるはなし長者は此氣力を以て之を幼者に授け父祖は此氣力を以て之を子孫に傳へ。人々相承け。家々相化し一國の氣風一定して永久動すべからざるに至ては國本強固ならざるを欲すれども得べからざるべし。若或は之に反し教育の及ぶ所其本を遺して其末に止まり人民の志操一定の方嚮を取らざるときは風俗腐

敗し信義地に墮ち浮薄卑屈情弱の氣隨て之に乗じ將來國家の運命實に未だ如何と云ふことを知らざるなり。願くは今に及んで全國の男子十七歳より二十七歳に至る迄其學に就かざる者とを問はず總て皆護國の精神を養ふの方法に従はしめ文部省は簡單平易なる教課書を敷き人々の諷誦又は講義に便ならしめ陸軍省は體操練兵の初步を教へ毎戸長又は毎郡の管掌する所とし一日に一度或は二度時間を限り其區域内の人民を學校に集め聽講又は運動に従來せしめば庶幾くは忠君愛國の意を全國に普及せしめ一般教育の標準を達し最下等の人民に迄要する所の品位を一定ならしめ國家の全部を舉げ奴隸卑屈の氣を驅除して遺す處なからしめ而して國本を鞏固にし國勢を維持するに於て裨補する所多からん有禮職掌の及ぶ所に於ては既に師範學校の生徒に操練を授けたり將來公私の學校に於て事宜の許す限りは益々此法を行はんとす是有禮の教育主義

の大本なり。」

以上は德育の準的につきて大概を御話致しました此準的を現實する處の方法につきて、感情意志の講義を終り更に改めて御話をして見たいと思ふのであります今日は之れで終ります。

○フレールベル誕生日

本月二十一日はフレールベルの誕生日にあたります。本會は此の日を紀念するために、同日午後三時より女子高等師範學校附屬幼稚園に於て、フレールベル紀念會を開き、東京高等師範學校教授乙竹岩造氏のフレールベルに関する有益なる御講演を願ひます。是非多數の方々の御來會を得て、楽しく有益に、此の日を記憶したいと思ひます。常會の通り會員外の方々も御隨意御來聽下さりまし。